

Annual Report 2017

ボランティア活動国際研究会

JAPAN INTERNATIONAL INSTITUTE FOR VOLUNTEERING RESEARCH

JIVRI

CONTENTS

● ボランティア活動国際研究会の概要	1
● 代表からの挨拶	2
● 「市民セクターの20年」研究会への参画	3
● 第8回東アジア市民社会フォーラムを開催	3
● 2018年度事業計画	6

ボランティア活動国際研究会の概要

ボランティア活動国際研究会（JIVRI）は、我が国および世界各国における市民社会セクターやボランティア活動の発展、そしてより良い制度環境の実現に向けて、東アジア地域を中心とした世界各国の市民社会組織との相互理解と能力開発、日本および世界各国における市民社会組織の活動と制度環境の調査研究に取り組んでいる、公益・非営利活動促進団体です。

団体名：ボランティア活動国際研究会

Japan International Institute for Volunteering Research, JIVRI

事務所：埼玉県入間市東藤沢5-7-11

JIVRI役員のご紹介（敬称略）

代表理事 青木利元 作家

副代表理事/事務局長

	白石喜春	公益法人協会研究員、金沢大学客員研究員
理事（会計）	村上徹也	日本福祉大学教授、青山学院大学客員研究員
理事	山岡義典	市民社会創造ファンド委員長、助成財団センター理事長
理事	秦辰也	近畿大学教授
理事	森隆子	
理事	全鍾淑	韓国ボランティアフォーラム
理事	楠田健太	トヨタ財団プログラムオフィサー、京都大学連携研究員
理事	顧子媛	元上海愛徳フィランソロピー開発センター所長

2018年5月現在

■ 代表からの挨拶

近年、英米を含む世界各国で市民社会に対する制度的圧力がかけられ、市民社会空間の縮小が深刻な問題となっています。日本も例外ではなく、複雑で重厚な制度設計、収支相償といった行き過ぎた規制により市民社会の発展拡大が難しい状況にあり、このことは公益法人や認定特定非営利活動法人の新規設立件数の伸び悩みに繋がっています。

世界各国がこのような状況にあることから、JIVRIでは市民社会の発展を模索する機会創出を図る目的で、2017年度に市民社会における研究交流を3つの地域的範囲でそれぞれ異なる事業を展開してきたわけですが、その事業こそが国内対象の「市民セクターの20年研究会」への参画、東アジア地域対象の「第8回東アジア市民社会フォーラム」の開催協力と参加、海外対象の機関誌「Civil Society Forum」を通じた各国市民社会の情勢紹介であり、これらをJIVRIの主要事業として位置付け実施してきました。

2018年度も、変化が著しい市民社会のフィールドで、我が国と各国市民社会の発展拡大の実現を目指した研究交流活動を実施して参りたいと思いますので、これまで同様に皆様方にはご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

JIVRI代表 青木 利元

2017年度事業概要

2017年度は、第8回東アジア市民社会フォーラム開催への協力および日本側共催団体として参画し、東アジアにおける市民社会関係者や団体の相互理解と交流を深めることができた。

また、「市民セクターの20年」研究会に世話団体として参画することにより、日本における市民セクターの発展の経緯と社会に与えたインパクトを検証する試みに寄与した。

さらに、2017年度より機関誌「Civil Society Forum」の発行を開始し、JIVRIの活動報告や各国市民社会の紹介などを行ってきた。

「市民セクターの20年」研究会への参画

2016年度に引き続き「市民セクターの20年」研究会の世話役会に参画して、日本NPOセンター、NPO学会などの関係者、会員に参加を呼びかけ、3回の研究会を通じて多くの参加を得た。また、各研究会の報告を公益法人協会の機関誌「公益法人」に掲載して、研究会の成果の普及を図った。



機関誌「Civil Society Forum」の発行

JIVRIの活動や各国市民社会の紹介を目的に、2017年度より年2回、機関誌「Civil Society Forum」の発行を開始した。期間中に発行した機関誌の主な内容は以下の通りである。

◆第1号（創刊号）

- ・World Report: 韓国のボランティア活動振興のための第1,2次国家基本計画
- ・CSOS Across the World: Duddingston Conservation Society

◆第2号

- ・第8回東アジア市民社会フォーラムの開催報告
- ・World Report 1: Civil Society in Argentina: going through its history and its present
- ・World Report 2: The State of NGOs in Tajikistan

第8回東アジア市民社会フォーラムを開催

2017年8月24日に、韓国慶州市内にあるThe K Hotelにおいて「被災地におけるまちづくりとコミュニティ再生」をテーマとして、第8回東アジア市民社会フォーラムが開催され、日本からの公益法人およびNPO関係者18名を含む日中韓3カ国の参加者約150名が集った。JIVRIは共催団体として参加した。

開会挨拶では、韓国側主催団体を代表し韓国ボランティアフォーラム(KFV)会長のJang Sukjoon氏、日本側主催団体を代表し公益法人協会(JACO)会長の太田達男氏、中国側主催団体を代表し中国国際民間組織協力促進会(CANGO)理事長のHaoming Huang氏からビデオによる挨拶があり、その後、各国代表の記念撮影が行われた。

その後の基調講演では、日本から宮定章氏（まち・コミュニケーション代表理事）が登壇し、阪神淡路大震災や東日本大震災での活動経験から、被災者の為ではなく、地域やコミュニティの視点で動くことや、被災者を応援するのではなく、住民主体の気持ちに寄り添うことの重要性が指摘され、防災にあたっては、支援団体は日頃から市民と信頼関係を持つことで、発災時に混乱なく支援活動が実現されるとした。

中国からは、Long Jiangwen氏（中国国際民間組織協力促進会常務理事）から基調講演があり、冒頭で「政治的な緊張の中でも良好な関係が維持できる我々3カ国の関係こそ、本当の友情。来年も中国で再会したい」と挨拶があった。続いて、CANGOが実施する、被災地復興支援における心理治療や生産活動支援の有効性、ジェンダー問題への取り組み、復興過程におけるマルチステークホルダーによる連携、防災のための自然環境の保護管理などが紹介された。

韓国からは、Choi, Yang-sik氏（慶州市長）による基調講演があり、慶州大地震など韓国国内で起こった大災害の経験を通して得られた教訓として、①コントロール機能の確保、②現場やケース毎の行動マニュアル、③専門団体、専門家のプール制、④防災の重要性が挙げられた。



最後に「今後も経験豊かな各国から学んでいきたい」と締めくくった。

午後からの問題提起では、日本側からは大西健丞氏（Civic Force代表理事）が、救援から復興まで一貫性のある支援プロセスをプラットフォームとして確立し、国境を越えたエリアで活動を展開していることが報告された。復興からコミュニティ再生までは中尾公一氏（県立広島大学、東北大学博士研究員）が担当し、コミュニティ再生に欠かせない住民組織の機能、つまり①規範形成機能、②紛争解決機能、③対外関係調整機能、④住民の役割・参画創出機能、⑤豊かさ創出機能が紹介された。続いて、コミュニティ再生後のまちづくりについては西川 正氏（ハンズオン埼玉理事）から報告があり、現在の社会について「お客様化し、孤立する暮らし（サービスを作りすぎると人は孤立する）」とし、また、コミュニティ運営には「正しいより、楽しいを重視（遊び心と共感が仲間を呼び、活動を活性化させる）」が重要と指摘した。

韓国側からの問題提起は、Oh, Changsup氏（韓国中央ボランティアセンター長）が登壇し、もともと官民交流の機会がなく、被災地でのコミュニティ再生に取り組む時に行政との擦れ違いが多々みられたことが報告された。また、コミュニティの活性化を実現させるために、住民主体でコミュニティ造成プラットフォームを商店街に設置した経験が共有され、今後は市場経済だけでは孤立すると指摘した。続いてChoi, Hyun-soo氏（安山市社会的経済センター長）からは、県レベルで子供に共働教育を実施、自分の役割を考えさせるなどしており、その結果、学生主導、住民主導の協同組合が各地で増えつつあり、現在、それらは分野を超えた連携が進展中とのこと。Lee, In-woo氏（京畿道共有市場経済政策補佐官）からは、「コミュニティ再生事業で身構えてたら何もできない。未来を見るのも評価するのも、何事にも楽観性が必要」とのことだった。

閉会にあたっては、日本側実行委員会の山岡義典委員長（助成財団センター理事長）及び韓国側実行委員会のKim, Sungjoon委員長（韓国ボランティア学会会長）から挨拶があった。その後、同会場で送別会が開催された。

8月25日（金）、午前中はボランティア専門家Talk Concertが開催され、市民社会から約100人が参加した。日中参加者ら全員と韓国側参加者の代表者らがセンターテーブル着席し、それぞれが属する団体の概要、社会課題に対する取り組みなどが紹介された。

2018年度事業計画

基本方針

市民社会分野における研究交流を3つの地域的範囲でそれぞれ異なる以下の事業を展開し、市民社会の発展を模索する機会創出に引き続き取り組む。

- 「市民セクターの20年」研究会への参画
- 第9回東アジア市民社会フォーラム開催への協力と参加
- 機関誌「Civil Society Forum」の発刊と各国市民社会の紹介

事業計画

- 「市民セクターの20年」研究会への参画
世話団体として「市民セクターの20年」研究会に参画し、2013年から2017年までの研究会の成果をまとめる作業に協力する。
- 第9回東アジア市民社会フォーラム開催への協力と参加
 - ・フォーラム日本側世話役会に共催団体として参加し、下記の活動を行う。
 - ・フォーラムのテーマ設定およびテーマに沿った日本からの発表者の人選と参加のための調整を行う。
 - ・フォーラムへの日本参加者グループを募集し旅行行程を運営管理する。

【フォーラムの概要】

日 時：2018年10月25日～27日

場 所：江南大学新社会組織研究センター（中国・無錫市）

テーマ：ふるさと創成とボランティアサービス

- 機関誌「Civil Society Forum」の発刊と各国市民社会の紹介
 - ・機関誌「Civil Society Forum」を年に2回発刊する。
 - ・海外における市民社会セクターの状況について原稿執筆の依頼を行う。
 - ・寄稿記事は、機関誌に掲載し、JIVRIホームページを通じて国内外に発信する。
- その他
 - ・国際交流の一環として、海外からの視察団の受け入れを行う。
 - ・広報活動の一環としてJIVRIホームページの充実を図る。



JIVRIでは、私たちの活動を支え、後押ししてくださる会員を募集しています。ぜひ皆様の力をお貸してください。会費は、下記の通りです。

□会 費 3, 0 0 0円 (年会費)

入会をご希望の方は、下記のメールアドレスにお名前、住所、電話番号および希望する会員区分(個人会員または賛助会員)のどちらかを記入したメールを送付してください。後日、入会申し込みの確認と会費振り込みの依頼をメールにて差し上げます。

入会申込先 email: member@jivri.org

ボランティア活動国際研究会
URL <http://www.jivri.org/index.html>